Your future is made by reading books12号

2023年11月20日

　ガーナの季節は雨期が終わり乾季に入りました。つい先日アクラに吹いた風は乾いた風で遂にハマターンが南下してきたようでした。日本は近年秋を感じることなく夏から冬に入ってしまったようだという声を聞きますが、こうした事から秋の夜長を楽しむことも段々と無くなってきてしまうのでしょうか。日本には文化の日を中心とした２週間を読書週間として定め、本を読むことを推奨しています。その読書週間を前に 10 月にプレスリリースされたベネッセ教育総合研究所様の『子どもの生活と学びに関する親子調査』にたいへん興味深い一文がありました。「幼年期の読み聞かせと早期の読書習慣の形成が読書行動に大きく影響している事が判明した。」とあったのです。これは日本国内の調査ですが、ガーナに於いても十分同じことが言えると感じているのです。現大統領夫人はご自身の名前を入れた財団で図書館を建てられています。もちろん私自身にもいえる事ですが、箱モノを造るだけではなくそれをどう活かしていくかが課題実践となっていくわけです。低学年から幼児クラスへの読み聞かせとお話しに関する工作の実践は私が巡回授業を行なえば可能ですが、高学年や中学生クラスは生徒自身が足を運ばないと本を読む機会が少なくなってしまうのです。本を読むことによって（物事の善し悪しを知る）（他者の心をくみ取る）そうした心を育む教育が出来ないだろうかという事もこの Your future is made by reading books プロジェクトの一環でもあるのですが、図書館を利用する生徒はやはり自ら本を読むのが好きな生徒に限られてしまっているのが現状です。新年度が 10 月から始まり、１か月も満たないうちにこの（心を育む教育）の必要性を感じる事案が立て続けに起きました。悪事の結託による盗み、他の生徒の作品を蹴って壊す、教師が生徒の作ったクリスマス作品を奪うなど、ガーナの教育プログラムで「モラル＆ルール」という道徳的な授業が一応は有っても機能していない環境で、私自身が対応できるものは行うけれども、やはりたくさんの本を読み心を育んで欲しいと願うのです。さて、学期に一回絵本の読み聞かせを目標に巡回授業を行なう中、今学期は前号にて触れました「Little Red Riding Hood」を読み、そして関連づけた工作では、赤ずきんちゃんの手遊び人形を作り、それを使って赤ずきんちゃんとオオカミのやり取りを朗読劇として行ないました。。こちらの様子は別途動画にてお伝えいたします。

図書館建設サポーター　　一般社団法人ギブアウェイ様
プロジェクトサポーター　フェリシモ基金事務局様　矢東タイヤ様
KAWASHO FOODS (GULF)FZE 様